

令和元年度 新田小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標 人間尊重の精神を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成
- (2) 具体目標（具体的な児童像など）

仲よく	よく考える子ども …… 規範意識を持ち、自ら考え、進んで学べる子ども 思いやりのある子ども … 自他のよさに気づき、共に伸びようとする子ども
強く	体力のある子ども …… 心身ともに健康で気力や活力に満ちた子ども
たくましく	はたらく子ども …… 目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、家庭・地域と信頼し合い、創意と活力にあふれた充実した教育活動の展開を通して、目指す学校像に迫る。

《目指す学校像》

- 子どもたちが、「友達大好き・勉強大好き・運動大好き・地域大好き」と言える学校
- 教職員が、互いに磨き合い、若い力が育つ「働きがいのある学校」
- 保護者にとって、「通わせて安心な学校」
- 地域住民にとって、「地域の誇りに思える学校」
- 児童・保護者・地域が共につくる特色ある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 子どもたちが「友達大好き・勉強大好き・運動大好き・地域大好き」と言える学校づくり
- ・すべての児童にとって居がいのある温かい雰囲気のある学級経営と、不登校を未然に防ぐきめ細かな支援の充実
 - ・「学校いじめ防止基本方針」に基づいたいじめを生まない指導の充実、及び道徳科を核とした人間尊重の精神の涵養
 - ・自己肯定感・自己有用感を高める工夫と認め励ます教育の推進
 - ・「宇都宮モデル」を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と、読書活動や家庭学習の充実を通じた読解力の育成
 - ・児童の地域行事への積極的な参画の促進や各種ボランティア活動の工夫と意識付け、郷土への愛情を育む学習の推進
 - ・実態に即した「元気アップ教育」と食に関する指導の推進による、運動に親しもうとする態度や健康を管理する能力の育成
- (2) 教職員が互いに磨き合い、若い力が育つ「働きがいのある学校」づくり
- ・県及び市のプランに即した「勤務時間を意識した働き方」及び「業務改善の取組」の推進
 - ・暗黙知及び学年や世代を越えた指導技術の伝達・共有等、互いに刺激し合い磨き合って教師力を高める取組の推進
 - ・適切な報連相による情報共有を基にした組織的な課題解決や協働による組織力の向上
- (3) 保護者にとって、「通わせて安心な学校」づくり
- ・積極的な情報発信や、きめ細かで誠意のある対応
 - ・適切な児童理解・観察を通してよさを認め、積極的に伝える教育の推進
 - ・交通安全教室や避難訓練などを通して、児童自らが危険を予測し回避する行動力を身に付ける指導の強化
- (4) 地域住民にとって、「地域の誇りに思える学校」づくり
- ・学校支援ボランティアや下校ボランティアなど、学校を支えてくれる方々への感謝の心の育成
 - ・学校だよりやHP等による積極的な情報発信
 - ・地域学校園や児童会の取組及び家庭との連携を生かした「あいさつ運動」を通じた規範意識を高める取組の推進

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育課程の編成に当たっては、日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、県及び市教育委員会の学校教育推進（学校教育スタンダード）の方向を踏まえて適切に編成する。
- (2) 学校教育目標や本年度の学校経営の方針及び努力点・具体策、並びに学校課題に即して、地域や学校の実態、児童の心身の発達の段階と特性を十分考慮し、教育課程編成のための視点を明確にして全職員の創意を生かした教育活動を実施し、人間として知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図る適切かつ、一貫性のある教育課程・各種年間指導計画を作成する。
- (3) 「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち、社会の変化に向き合い適切に対応していくため、学校教育を通して育むべき資質・能力を教育課程全体の構造の中で明確に示す。
- (4) うつのみやマネジメントシステムによる評価等を踏まえ教育課程を編成する。
- (5) 市の「平成 31(2019)年度指導の重点」を編成に反映させる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】	「地域協議会のテーマトークと児童の願いから生まれた合言葉『友達大好き・勉強大好き・運動大好き・地域大好き』の浸透と、地域と共にある特色ある学校づくりの推進 ・異学年による交流活動の充実とあいさつ運動の推進 ・理科の授業研究を中心とした授業改善による、学びを楽しむ子どもの育成 ・読書活動の推進等を通じた読解力の育成 ・立腰教育を取り入れた、気力・体力を育む教育活動の推進 ・「集団の一員」意識を高めるボランティアプロジェクトの推進
【学 習 指 導】	「自ら学びに向かう児童の育成」 ～科学の目をもち対話しながら深め合う授業展開の工夫～ ・望ましい学習態度、習慣の定着 ・学力向上に向けての実効性のある対応 ・学ぶ意欲を高める授業づくり ・新しい分野への対応（理科・外国語活動・特別の教科 道徳・プログラミング教育）
【児 童 生 徒 指 導】	「自他への思いやりの心をもち、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」 ・正しい言葉遣いと礼儀を意識した挨拶の定着 ・ボランティア精神の育成と自尊感情の向上 ・家庭・学校・地域等、社会に対する帰属意識の向上 ・互いに人権を尊重し合う意識の涵養
【健康（体力・保健・食・安全）】	「自らの健康に関心をもち、望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成」 ～生活習慣の改善を目指した取組を中心として～ ・健康の保持増進 ・運動の日常化 ・食に関する指導の充実 ・判断力・行動力を意識した安全教育 ・家庭・地域との連携

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
目 指 す 児 童 の 姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	・興味関心を高めるための授業の導入や展開、指導法を工夫改善したり、認め合い高め合う集団づくりなど学業指導を継続して実施したりして、児童の学習意欲を高める。 ・学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質の向上に努めるとともに、対話の中で互いの思いや考えを深め合う授業展開の工夫に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は前年度比 1.5 ポイント増の 91.0%で数値指標を上回った。市平均と同程度と言える。今年度は、特に理科の授業研究を中心に、児童が対話の中で互いの思いや考えを伝え合い、深め合う授業展開の工夫に努めてきた。 【次年度の方針】 より深い教材研究を重ねることで、授業のねらいと児童による学習のまとめや振り返りの内容が一致するような授業展開の工夫に努める。また、一人一授業を実践し、教職員が相互に学び合うことで授業力向上を図る。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	・本校及び地域学校園道徳教育の重点項目の一つに「思いやり・親切」を掲げ、各教科等や体験活動等と関連した道徳の授業を連携・工夫して実施することで、生命や人権を尊重する心、思いやりの心を育む。 ・特別の教科道徳及び人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通して計画的に道徳及び人権教育を実施する。 ・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年や幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。	B	【達成状況】 肯定的回答率は、教職員が 87.1%、保護者が 88.8%で、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 温かい人間関係を育む学級・学年経営を核に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を行う。掲示物や帰りの会などを活用して、友達の良いところを認め合う機会を設定することで、互いのよさを認め合おうとする意識を高める。

目 指 す 児 童 の 姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・生活のきまり（「よい子の生活」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、同一歩調で連携して粘り強く取り組む。 ・児童の実態をもとに、生活目標にきまりとマナーに関する目標を設定し、朝の会や帰りの会で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 81.8%で、数値指標を達成した。一方で、教職員の肯定的回答率は 71.0%と昨年度より大きく下回り、児童との意識のずれが見られる。日々粘り強く指導を重ねる教職員の思いや願いの表れと言える。 【次年度の方針】 継続して「すすくカレンダー」で一日を振り返りことで、生活習慣の定着と意識の向上を図る。よい行いに注目し、気持ちよく生活できることを実感させ、できたことを称賛することで自己肯定感を高める。児童の実態をもとに生活目標を設定し、規範意識を高める。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率各 80%以上	・全学級ローテーションの「あいさつ運動」や、若松原地域学校園小中連携による「WGS あいさつ運動」を継続していく。 ・朝や帰りのあいさつに加え、様々な時と場に応じたあいさつの実践に向けて、取組を工夫していく。 ・PTA や地域協議会と連携し、「大人から進んであいさつする」活動を地域ぐるみで展開していく。	B 【達成状況】 肯定的回答率は、保護者が 81.4%、児童が 86.4%で、いずれも指標を達成した。どの児童も「あいさつ運動」の当番を経験することで、主体的に取り組もうとする気持ちを育成できた。 【次年度の方針】 クラスごとのあいさつ運動を工夫して継続していき、あいさつの励行に取り組んでいく。また大人の率先垂範も継続していく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・学級活動や各教科の授業、各種検定等において、児童が目標に向かって粘り強く取り組み振り返る機会を設けるとともに、教職員が児童の変容を見取り称賛していく。 ・児童が相互に認め合う場や、教職員が認め励ます場を工夫して設けることにより、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・道徳科の「希望と勇気、努力と強い意志」の学習を通して、粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践意欲を高めていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 86%で、数値指標を上回った。授業においてめあてや振り返りを大切にしたり、「がんばりカード」などを活用して検定等に取り組んだりした結果と考えられる。 【次年度の方針】 引き続き、「がんばりカード」などを活用して検定等を実施するとともに、各教科の授業においては、粘り強く意欲的に取り組めるようなねらいの設定に努める。1 日の終わりや学期の節目等に児童が相互に称賛し合う場を設けたり、「宮っ子心の教育表彰」で頑張りを認めたりすることにより自己肯定感を高めていく。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・児童が自分の健康に関心をもち、望ましい生活習慣と健康を管理する力を身に付けられるよう、学級活動や体育科、学校行事と連携した保健指導や日常生活指導を行う。 ・栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣等、各教科・領域との関連を図った食育を推進する。 ・判断力・行動力を意識した安全教育を推進するために、登校指導や下校指導の他、一斉下校を月 1 回から週 2 回に増やすなど、より一層児童の実態に即した安全指導を行う。また、交通安全教室、避難訓練等の計画を「判断力・行動力」の視点で見直し、全教職員の共通理解のもと実践する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 90.4%、教職員は 96.8%で、数値指標を達成した。すすくファイルや食育ファイルなどを活用し、児童が自分の健康に関心をもてるようにし、養護教諭や学校栄養士と担任が連携し、保健指導、食育指導を行った。また、交通安全教室や避難訓練等では、外部機関と連携し、意識の向上を図ることができた。 【次年度の方針】 引き続き、すすくファイルや食育ファイルなどを活用しながら、養護教諭や学校栄養士と連携した指導を行う。また、自ら主体的に判断し行動できる場面を設定した安全教育を推進していく。

目 指 す の 姿	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる」【A5 再掲】 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自分のよさに気づき夢や目標をもって取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観及び職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間等、各授業において、家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする契機とする。 ・市内や地域での校外学習等を通して、多くの「人、もの、こと」に触れる場を設定することにより、それらのよさに気づき興味関心を高める機会とする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 86%で数値指標を上回った。校外学習等で体験的な活動を実施したり、総合的な学習の時間においてキャリア教育を年間指導計画に位置付け、教科との横断的な取組を行ったりした。 【次年度の方針】 次年度は、キャリアパスポートを活用しながら、学級活動との連携を図り、自分のよさに気づき夢や目標をもてる児童の育成に努める。また、家庭や地域において夢を実現している人との交流活動などを積極的に行い、夢の実現に向けて努力する意欲を高めるとともに、積極的に地域の人々や地域社会と関わろうとする態度を育成する。
	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やA L Tとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・A L Tを有効に活用した外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・外国語活動に関する校内研修を行うとともに、教材教具の充実を図る。	B	【達成状況】 本校の数値指標は上回っているが、市平均肯定回答率と比較すると、児童は 84.8%で 3 ポイント、教職員は 80.6%で 10.9 ポイント下回っている。授業中のやり取りは英語で行っているが、主体的に英語を用いて児童同士でコミュニケーションを図ろうというところまでは至っていない。 【次年度の方針】 コミュニケーションに活用できる基本的な知識や技能が身に付くように、学習活動を工夫する。
	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等を通して、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気づく指導の充実に努める。 ・教師自身が宇都宮市の歴史や文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 74.2%で、数値指標を下回った。第 3 学年社会科では宇都宮市を中心に学習するが、他の学年では直接的に宇都宮市の内容を取り扱う単元がほとんどないことが考えられる。 【次年度の方針】 宇都宮学の導入により、どの学年においても宇都宮のことを直接学ぶので、この機会を生かし、より身近に宇都宮のよさを児童に気付かせるとともに、道徳において郷土資料を活用し、郷土愛を育む。また、教師自身も宇都宮市の歴史や文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう職員研修などに積極的に参加する。
	A 10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・情報教育年間計画に基づき、各教科年間指導計画等と関連を図りながら、児童が適切にI C T機器を活用し、効果的な学習ができるようにする。 ・市立図書館学校支援室等を有効に活用し、各学年の学習のニーズに応じた教育図書の整備充実を図ったり、時機を得た調べ学習コーナーを設定したりするなど、学校図書館及び校内の環境整備に努める。 ・学校図書館利用の時間や読書・読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して、児童の図書活用への意欲を高める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 81.6%で、数値指標を上回った。各教科においてデジタルカメラや書画カメラ等を活用する場面を意識的に取り入れることで、効果的な学習ができた。学校図書館司書との連携により、授業前に必要な図書資料を準備したことで、円滑な調べ学習を進めることができた。 【次年度の方針】 来年度実施のプログラミング教育において、適切にI C T機器を活用し、プログラミング的思考を高めていく。また、読み物以外の図書資料を充実させ、図書室以外でも常に辞書等を使用できる環境を整えることで、児童が進んで調べ学習に取り組めるようにする。

目 指 す 児 童 の 姿	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している」【A2 再掲】 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・各学習活動や行事等において、高齢者や地域の方と交流する機会を設け、感謝の気持ちや相手を思いやる心を育む。 ・各教科・領域や体験活動等と関連した道徳の授業を工夫して実施し、生命や人権を尊重する心、思いやりの心を育む。 【A2 再掲】 ・特別の教科道徳及び人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通して計画的に道徳及び人権教育を実施する。 【A2 再掲】	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 82.5%で、数値指標を達成した。また、地域住民の肯定的回答率も 85.7%と高く、一定の評価を得ることができた。 【次年度の方針】 読み聞かせボランティアや学習支援ボランティアなど、身近なところで多くの高齢者にお世話になっていることを意識させることで、児童が感謝の気持ちをもって接することができるようにしていく。総合的な学習の時間など高齢者と触れ合う機会を設けることで、共に生活していこうとする意識を高めていく。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科や総合的な学習の時間等、環境教育に関わる一連の学習を再構築し、効果的な指導を行う。 ・各種出前授業等、関係機関の教育力を積極的に取り入れて、環境問題への関心及び知識・技能を高めるとともに、これまでの生活を振り返り、自分にできることを考え実践しようという意識や態度を育成する。 ・過去の災害に学ぶ機会を設けるとともに、自ら判断し行動することの大切さを、避難訓練等を通して繰り返し指導する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 80.2%で数値指標と同等であった。各教科との連携を図るとともに、第 5 学年の総合的な学習の時間に環境教育の単元を新たに位置付けたことで、環境問題への関心が高まりつつある。 【次年度の方針】 各教科や総合的な学習の時間との連携を充実させるとともに、指導計画の再構築を行い、出前授業や関係機関の教育力を系統的に取り入れられるようにする。また、児童会活動等を活用し、環境問題や世界の動きについての啓発を行う活動を積極的に取り入れる。さらに、今後も計画的に避難訓練を実施し、災害から学ぶ機会を設けるとともに、自ら判断して行動する大切さを指導していく。
	B1 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・新田小学校「すくすくカレンダー」を継続的に活用し、家庭との連携・協力を大切にしながら取り組む。 ・各学年の児童の実態や発達段階に応じた内容や分量を工夫し、進んで楽しく継続して取り組むことができるよう努める。 ・家庭学習のよい事例を積極的に紹介したり称賛したりして、意欲を高めたり学習方法の習得につなげたりする。(漢字練習法の統一・自学ノートの活用等)	A	【達成状況】 児童による肯定的回答率は 74.6%、保護者は 71.3%で、数値指標より 5～8 ポイント程度下回っている。今年度も「すくすくカレンダー」を継続的に活用し、家庭との連携・協力を図りながら取り組んできた。また、宿題の内容及び分量が児童の実態や発達段階に即したものとなるよう、学年間及び学級間で連携し進めてきた。しかし、自分で課題を設定する家庭学習の取組には個人差が見られた。 【次年度の方針】 学年や発達段階に応じた自主学習のテーマリストを作成したり、手本となるノートの使い方を紹介したりすることにより、意欲付けを図る。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・特別な支援を要する児童について、担任が一人で抱え込むことなく、組織で適切に対応できるよう、小さな気付きを伝え合える職員室の環境づくりに努める。 ・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、支援を要する児童について全教職員で共通理解を図り、個のニーズに応じた支援を組織的に行う。 ・必要時には即座に校内支援委員会を開いて対応を検討し、チームで対応する。 ・適宜個別の支援計画及び指導計画を作成し、定期的に評価改善を加えながら指導支援を行う。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 100%で、数値目標を大きく上回った。これは、特別な支援を要する児童について担任が一人で抱え込むことなく、教員間で共通理解を図り、組織として適切に対応できるように努めてきた成果と言える。 【次年度の方針】 支援を必要とする児童について、今後も全教職員で共通理解を図り、個のニーズに応じた支援を組織的に行うことができるよう努める。個の状況に応じ、校内支援委員会を開き、対応を検討し組織で対応していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上	・学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ・児童会が主体となり、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 ・定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は96.6%で数値指標を上回った。一方で保護者アンケートにおいては、昨年度より9ポイント下回った。いじめの早期発見、即時対応、いじめ対策委員会の開催など、全職員体制でいじめ解決に努めることができ、いじめに対する教職員の姿勢は伝わったが、保護者全体の理解までには至らなかった。 【次年度の方針】 集会活動や標語作りなどを通して、いじめ根絶の意識を高めていく。教育相談を今後も継続させ、個人懇談など保護者と連携を図りながら、児童の心の不安等にいち早く気づき、向き合える体制を整え維持していく。いじめゼロ集会の保護者参観や地域に多くの情報を発信することで、取組への理解を促す。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励ましかうクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	・児童が相互に認め合う場や、教職員がよさを認め励ます場を工夫して設けることにより、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・教育相談週間（年2回）や学校生活アンケート（年4回）、Q-U調査（3年以上1回、5年のみ2回）等を有効に活用し、実態把握と要配慮児童の早期発見に努めるとともに、必要時には迅速かつ適切な情報共有のもと、必要に応じて関係諸機関との連携を図りながら、組織的に支援を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は93.8%で数値指標を上回った。また、保護者も高い肯定的回答率であった。一人一人に寄り添い、居心地のよい学級経営に努めた結果と言える。 【次年度の方針】 教育相談週間や日々の様子に気を配り、配慮を要する児童の早期発見に努め、職員間で連携を図りながら、適切な対応を行って行く。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上	・児童が、様々な国や文化の違いやよさを知り、認め合い尊重して生活しようという意識を高める指導を行う。 ・外国人児童について全教職員で共通理解を図り、日頃から必要な配慮を行うとともに、ニーズに応じた支援を組織的に行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%で、数値目標を大きく上回った。学年を中心に、外国人児童に対して皆で温かく認め合い、見守る雰囲気醸成に努めてきた結果と言える。 【次年度の方針】 全教職員で共通理解を図り、日々の生活において、必要な配慮と周囲の児童への働き掛けを継続して行っていく。また、文化の違いやよさを知り、互いに認め合える環境作りに努める。

目 指 す 学 校 の 姿	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上	・児童相互及び教師と児童の温かい人間関係を育む学級・学年経営を基盤に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、言葉掛けや「かがやきカード」でプラスのメッセージを伝え合うなど、児童の自己肯定感を高める取組を行う。 ・様々な教育活動に、兄弟学年や縦割り班等の異学年交流を効果的に取り入れることで、体験を通して思いやりの心を育てる取組を推進する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は、数値指標及び市平均を下回り 86.5%であった。また保護者の肯定的回答率も 88.6%となり、市平均を下回った。一方、地域の肯定回答率は、昨年の 90.5%から今年度 92.9%と増加した。教職員の肯定的回答率は 100%と高く、児童、保護者との意識のずれがある。兄弟学年や縦割り班等の異学年交流を行ったり、児童の温かい人間関係を育む学級・学年経営を心掛け指導・支援したりしているが、児童の肯定感を高めるまでには至っていない。 【次年度の方針】 引き続き温かい人間関係を育む学級・学年経営を核に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を行う。また「かがやきカード」を活用し、担任以外でも積極的に児童に声を掛ける機会を増やし、児童の頑張りを家庭にも伝えていく。また、教育相談や学校生活アンケートから、いじめ等の早期発見、早期解決に努め、児童が安心して学校生活を送れるように努めていきたい。さらに様々な教育活動を通して、高学年のリーダー性を高めながら児童の主體的な活動を図ると共に、異学年交流等を通して相手を思いやる気持ちを育てよう努めていく。
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上	・基礎・基本の定着を図るために、授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認し「分かる楽しい授業」を展開するとともに、常に指導の工夫改善に取り組む。 ・チームティーチングや少人数指導、かがやきルームでの指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。	B 【達成状況】 児童による肯定的回答率は 93.6%で数値指標を上回っているが、昨年度より 1.6 ポイント下回っている。市平均とは同程度である。少人数指導、かがやきルームでの指導の他、「朝の学習の時間」の充実を図った。児童自らが自分の弱点を克服できるよう教材を準備したり、担任以外の教職員がつまずきのある児童に個別指導を行ったりしてきた。 【次年度の方針】 授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認する活動を丁寧に行う。また、「分かる・楽しい授業」を目指し、教材研究をさらに深めるようにする。

目 指 す 学 校 の 姿	A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・学校図書館司書や外国語指導助手 (ALT)、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー (SC) 等、多様な専門性を有する学校スタッフが、「チーム学校」としてよさを最大限に発揮できるよう、取組の目的や運営方針、方法等について十分に話し合い、理解を共有して取り組めるようにする。 ・明るく和やかな雰囲気の中で信頼関係を築くことができるよう努め、情報交換や振り返りを通して改善を加えながら進めることで、一人一人が十分に力を発揮できるようにする。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は、93.5%で、市の平均と同程度であった。職場での人間関係はよい雰囲気である。教職員と学校スタッフとの間でもこまめに打ち合わせや情報交換をしながら職務に当たっている。 【次年度の方針】 引き続き「チーム学校」としてこまめな情報交換を行う。また、問題が起きたときは、支援委員会等を開くなど、担任だけでなく学校全体で取り組んでいくようにする。
	A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・本校の働き方改革の視点に立って、教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的、効率的な業務の処理、改善に努める。 ・本校の教職員が精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるよう、フォーカス&スクラップの考えに立ち、教育課程や校務分掌、各業務を見直し、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ・学習情報システムやICTをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務の効率化を図る。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は、61.3%で、市の平均も数値指標も大きく下回っている。本校の働き方改革の視点に立って、業務の見直しや改善を目指し進めてきたが、改善のために多くの時間を要したことと、教職員の意識がフォーカス&スクラップの視点に切り替えきれなかったことにより、改善を図ることが難しかった。 【次年度の方針】 本校の働き方改革の視点に立って、教職員一人一人が計画的、効率的な業務の処理、改善に努める。また、フォーカス&スクラップの考えに立ち、教育課程や校務分掌、各業務等の思い切った見直しを行い、各種行事等の実施方法の改善を行う。
	A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・小中9年間を貫く教育が児童の望ましい成長につながるよう、目的や方法について全教職員が理解を共有し、連携して推進する。 ・WGS あいさつ運動や中学生の行事への参加などを積極的に実践し、地域の活性化を図る。 ・取組の様子や成果等を保護者や地域に積極的に発信し、理解と協力を仰ぐ。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 93.5%で、数値指標を上回った。中学校から小学校への乗り入れ授業や合同でのあいさつ運動など、交流活動を通して中学校との連携を深めることができた。 【次年度の方針】 保護者や地域からの理解を広めるため、各種たよりや学校ホームページでの情報発信に積極的に取り組み、小中一貫教育・地域学校園に対する関心と理解の醸成に学校として取り組んでいく。
	A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。 ・交流学习やふれあい活動など、参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 ・活動の内容を掲示コーナーで紹介し、活動への理解を促す。	B	【達成状況】 保護者・地域住民の肯定的回答率は 84.9%、80.0%で共に数値指標を下回っている。陶芸家による卒業制作、スイミングスクールコーチによる水泳指導、地域スポーツクラブによる昔遊び体験など、地域人材を活用した特色ある教育活動を実践している。 【次年度の方針】 引き続き、家庭や地域等と連携して教育活動の充実を努めるとともに情報発信を行い、学校運営への理解を広めていく。また、ボランティアの人材発掘にも取り組んでいく。

目指す学校の姿	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。【A22 再掲】 ・交流学习やふれあい活動など、参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 【A22 再掲】 ・活動の内容を掲示コーナーで紹介し、活動への理解を促す。【A22 再掲】	B 【達成状況】 保護者・地域住民の肯定的回答率は 84.9%、80.0%で共に数値指標を下回っている。地域協議会やPTAとの連携のもと、夏休み作品募集、読書や各教科、農園活動などのボランティアを中心に地域人材を活用した教育活動を実践している。 【次年度の方針】 引き続き、家庭や地域等と連携して教育活動の充実に努めるとともに情報発信を行い、学校運営への理解を広めていく。また、ボランティアの人材発掘にも取り組んでいく。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	・学校の安全な環境を維持するため、安全点検実施計画に基づき、毎月、校内施設・設備の点検を組織的に実施し、危険箇所があれば迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ・熱中症予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、適宜必要な保健指導管理及び関係者への周知徹底に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%、保護者は 89.4%で、数値指標を達成した。学校の安全な環境を維持するため、実施計画に基づき滞りなく安全点検を実施し、危機管理マニュアルの整備と活用、及び様々な事態を想定した避難訓練を実施した。また、保健衛生面では、各教室へのアルコールの配付や感染症対策セットの活用により予防対策を行ったり、職員研修等で周知徹底を行ったりした。保健委員会の児童によるポスターの掲示、教室換気の呼び掛け、機器を使った温度・湿度測定等の活動も行った。 【次年度の方針】 引き続き、安全点検の実施や危機管理マニュアルの整備、避難訓練等を行うとともに、熱中症及び感染症予防のため、温湿度計の買い替えを行い、適切な管理を行う。
	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、ICT 機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・情報教育年間計画に基づき、各教科年間指導計画等と関連を図りながら、児童が適切に ICT 機器を活用し、効果的な学習ができるようにする。【A10 再掲】 ・市立図書館学校支援室等を有効に活用し、各学年の学習のニーズに応じた教育図書の整備充実を図ったり、時機を得た調べ学習コーナーを設定したりするなど、学校図書館及び校内の環境整備に努める。【A10 再掲】 ・読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。【A10 再掲】	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 81.6%で、数値指標を上回った。児童が、各教科において、パソコンやデジタルカメラ等を効果的に活用できる環境を整えることができた。学校図書館司書が、地域学校園や南図書館と連携をして、学年や教科に合わせた図書資料を準備し、調べ学習に適した環境を整備することができた。 【次年度の方針】 適切に ICT 機器を活用し、より効果的な学習ができる環境を整備する。また、地域学校園や市立図書館学校支援室等を有効に活用し、引き続き、各学年の学習のニーズに応じた教育図書の整備充実を図る。
本校の特色・課題等	B2 学校は、家庭や地域と連携・協力して、児童の安全確保のため危機管理に努めている。 【数値指標】 学校独自アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協力して、児童の安全確保のため危機管理に努めている」 ⇒保護者の肯定的回答率 90%以上	・児童の安全確保のため、家庭や地域及び関係諸機関と連携・協力して、未然防止及び緊急対応のための体制を整える。 ・危機管理マニュアルを定期的に点検・改善・共有し、緊急時の迅速かつ的確な対応に努める。 ・地震・火災、竜巻、不審者対応避難訓練及び保護者への引渡し訓練等を年間計画にバランスよく配置して実施し、家庭や地域に情報を発信する。 ・「こども 110 番の家」協力者の更新・整備を保護者や地域と連携・協力して行う。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答率は 88.8%で、数値指標を下回った。一方で、教職員の肯定的回答率は 100%と高く、保護者との意識のずれがある。児童の安全確保のために、保護者・地域に便りを配付したり、一斉メールで注意を喚起したりしてきた。また、避難訓練等を適切に実施し、「自分の命は自分で守る」指導を積み重ねてきた。 【次年度の方針】 児童の安全のために学校が取り組んでいる活動を保護者や地域住民に積極的に発信したり、地域の方から安全・安心に関わる情報を得たりして、共に児童の安心安全の確保のために連携、協力しながら、よりよい関係を構築していく。

本校の特色・課題等	B3 児童は、読書の楽しさに気づき、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は読書の楽しさに気づき、進んで本を読んでいる。」⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・定期的な読書の時間や、ボランティアや担任交換による読み聞かせ、ブックトーク、読書週間での催し等、本にふれあい親しむ多様な体験を通して、読書に対する興味関心を高め、楽しさに気付けるようにする。 ・市立図書館学校支援室の有効活用や、家庭と連携した家読（「親子読書」）の実践等、児童と本をつなぐ取組を推進する。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 71.2%で、数値指標を下回った。教職員は 93.5%と高く、意識のずれがある。読み聞かせや「おはなし会」、読書週間のイベントなど、本とふれ合う多様な体験を通して、興味関心が少しずつ高まってはいるが、進んで楽しむ態度にまでは至っていない。 【次年度の方針】 朝の読書の時間を充実させたり、おすすめの本を紹介したりし、本に親しむ機会を設けることで、児童が進んで読書に取り組めるようにする。家庭と連携し家読（家族ふれあい読書）を行うなど児童と本をつなぐ取組を推進する。
	B4 児童は、異学年交流を通して、自主性や豊かな人間関係を育んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、異学年交流で、多くの友達と助け合いながら楽しく活動している。」⇒児童の肯定的回答率 90%以上	・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年や幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。【A2 再掲】 ・縦割り班の班長を中心に児童が主体的に活動できる機会を増やしていくことで、他の人のために役に立っているという意識（自己有用感）を高めるとともに、互いのよさを見つけ、協調して活動しようという態度を育てる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 86.4%で、数値指標を下回った。一方で教職員は 96.8%、地域住民が 93.3%と高い結果を得た。 【次年度の方針】 わくわくタイムの縦割り班活動だけでなく、農園活動や清掃活動など普段から異学年交流を推進する。各学年が集団の中でいづれかの役割と責任をもち果たせるように支援し、人の役に立つ喜びを実感させ、自己有用感を高めるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・数値指標達成状況からみると、約 8 割の項目で達成できた。中でも、目指す児童の姿の「**進んで学習**」、目指す学校の姿の「**不登校を生まない学級経営**」「**分かる授業やきめ細かな指導**」で、保護者・地域・児童・教職員のうち該当する全ての対象から高い結果が得られた。今後とも、本校・本地域のよさを生かし、協力・連携を深めながら教育活動を実施していきたい。
- ・全市小学校の平均と比較しても高評価を得た項目も見られた。特に目指す児童の姿の「**ICT 機器や図書等の学習活用**」、目指す学校の姿の「**不登校を生まない学級経営**」「**利用する人の安全に配慮した環境づくり**」では、該当する 3 対象者のうち 2 対象者において市平均を上回った。
- ・個々の項目については、目指す児童の姿の「**きまりやマナー**」「**宇都宮の良さ**」、目指す学校の姿の「**教職員の勤務時間、業務の効率化**」、本校の特色・課題である「**家庭学習の習慣**」「**進んで読書**」の 5 項目において課題が見られた。また、「**地域の教育力を生かした特色ある教育活動**」「**家庭・地域・企業等との連携・協力**」についても、学校での取組を保護者や地域に積極的に情報発信することや、相互理解の下、一層の連携・協力を推進することの重要性が浮き彫りとなった。
- ・未来を担う子どもたちのよりよい成長のために、本校のもつ地域の特色やよさを最大限に生かしながら、学校を取り巻く様々な実情にしっかりと目を向け、よりよい教育活動の再構築を目指したい。

7 学校関係者評価

〈テーマ 1〉「きまりとマナー」

・教職員と児童の感じ方に大きな差がある。その原因は数字だけでは分からないが、日頃、教職員が児童に向き合い、繰り返し粘り強く指導する中で積み重ねられた思いや願いの表れではないか。教職員で話し合い、次年度に向けての対策を打つとよい。

〈テーマ 2〉「地域の教育力を生かした特色ある教育活動」「家庭・地域・企業等との連携・協力」

・児童、教職員に対して、保護者、地域住民の肯定的回答率が低いという結果は、自分の認識とは異なる。日頃から、学校教育活動の中でボランティアによる様々な支援が積極的に行われていると感じ、たいへん感謝している。

・様々な協力や支援が行われている。頑張っていることが理解されていない。もっとアピールした方がよい。事前に取り組を周知したり、活動の様子を広報したりすることが大切だ。

〈テーマ 3〉「児童の安全確保・危機管理」

・自治会等を中心とした安全見守り活動が積極的に行われている。子どもたちも、ボランティアと顔見知りになるにつれて挨拶をしてくれるようになってきた。

・未だ心配な行動をとる児童もいる。根気強く声掛けをするなど、地域の皆で児童に関わっていくことが肝要だ。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<学校運営>

- ・ 重点目標に「地域協議会のテーマトークと児童の願いから生まれた合言葉『友達大好き・勉強大好き・運動大好き・地域大好き』の浸透と、地域と共にある特色ある学校づくりの推進」を掲げ、異学年による交流活動の充実や理科の授業研究を中心とした授業改善、読書活動の推進、立腰教育を取り入れた教育活動、「集団の一員」意識を高めるボランティアプロジェクト等を、保護者や地域の協力の下教職員が一丸となって推進してきた。次年度も、引き続き『友達大好き、運動大好き、勉強大好き、地域大好き』とみんなが言える学校づくりを目指し、学校と保護者、地域が協働し一体となって取り組んでいくとともに、教職員が互いに磨き合う意識を高め、切磋琢磨する場の充実を図ることで、学校力を高めていく。

<学習指導>

- ・ 「自ら学びに向かう児童の育成～科学の目をもち対話しながら深め合う授業展開の工夫～」を重点目標に掲げ、学ぶ意欲を高める授業づくり、望ましい学習態度や習慣の定着、学力向上に向けての実効性のある対応、新しい分野への対応（理科・外国語活動・特別の教科 道徳・プログラミング教育）について研究を進めてきた。今後も同重点目標の下、今年度の成果と各種調査の結果を踏まえて、更に児童の実態に即した工夫改善を行うことにより、児童一人一人が学ぶことの本質的な楽しさを体感し、学びに向かう態度を身に付けられるよう、研究を進めていく。また、地域素材や地域人材、地域の教育力を生かして、児童が互いのよさを認め合い、共に学び合う授業の展開を追求していく。

<児童生徒指導>

- ・ 「自他への思いやりの心を持ち、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」を目指して、正しい言葉遣いと礼儀を意識した挨拶の定着やボランティア精神の育成と自尊感情の向上、家庭・学校・地域等、社会に対する帰属意識の向上、互いに人権を尊重し合う意識の涵養等、家庭・地域・関係機関と連携し、基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成、望ましい集団づくりに向けたよりよい人間関係づくりを推進してきた。今後は、同重点目標の下、引き続き課題となるきまりやマナーの定着に向けて、家庭や地域との連携を深めながら取り組んでいく。

<健康（体力・保健・食・安全）>

- ・ 「自らの健康に関心を持ち、望ましい生活習慣を身につけようとする児童の育成」を重点目標に、生活習慣の改善を目指した取組を中心として、家庭・地域と連携し、健康の保持増進や運動の日常化、食に関する指導の充実、及び判断力・行動力を意識した安全教育について推進してきた。今後も、同重点目標に向かって、これまでの成果と児童の実態をもとに取組を更に充実させていく。児童が自らの命を守り健康を保持増進するために、主体的に考え、判断し、行動することができるよう、更なる指導の工夫改善を行う。その中で、困難さへのチャレンジや苦手なことの克服等、自己肯定感やへこたれない心につながる体験を重視していく。